

准教授 茶谷 薫

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例		<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の科目（生物学、生態学、人類学）においてはパワーポイント形式のスライドを作成し、それに対応する印刷資料を渡し、また関連する動画を数分間、流し、視聴覚的にも理解できるようにした。 ・演習形式の科目（大学生になる）では、学生の顔と氏名をいち早く覚え、各学生に対応できるよう工夫した。 ・調理実験とそれについて解説する講義を両方行う科目（教養講座自然）ではレシピを記したプリントを毎回作成、配布し、理解を深めるために写真や板書で実験の裏側にある生物学的、化学的、物理学的な原理を講義した。 ・オフィスアワー、それ以外の時間帯にも、一年間に延べ百名を超える学生の相談に乗った。
◎作成した教科書・教材		<ul style="list-style-type: none"> ・上記のように、講義の各回における印刷物を毎回作成、印刷し、学生に配付した。 ・子どもの発達において重要な「入れ子」遊びの例を示すために、紙で入れ子の箱を作成し、提示した。 ・二酸化炭素について学修する際、炭酸水を自作する方法を教えるため、OHCで炭酸水を作る様子をスクリーンに映して見せた。 ・調理実験がある授業では、レシピを毎回作成し、実践的に好ましくない例を見せることで、巧く実験できるように促した。 ・上記の実験では、麦の種から麦芽を育てることも学生にさせるが、教員側でもあらかじめ行い、各日齢の写真を撮影し、それを映像資料とした。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎学術論文 保育内容の理解を深めるための育児体験マンガ活用—特に保育内容「環境」に関連して—	単著	2017. 3	名古屋芸術大学研究紀要第38巻 179～194頁	子育てを経験しておらず、実際の子どもの姿を余り深く知らない幼保志望の学生たちが保育内容について学修する上で、漫画家自身が体験したことを作品化した子育てマンガが有用である。2つの作品を例に挙げ、保育内容の五領域、特に環境に関して、具体的な場面を記述し、考察した。

総合的学習と教養教育を基盤とした地域の文化拠点形成に向けて	単著	2017. 3	名古屋芸術大学教職センター紀要 第5号 73-80頁	中核都市から離れた地域における文化的な拠点づくりを意識している喫茶店において、主に社会人を対象とした総合的学習と教養教育に関わる講座を著者が二回開催したことについて、報告を行った。
工場地帯の道	単著	2016. 6	フィールドから：観察の友 134号、1259頁	碧南市の工場地帯における道路の特徴を報告し、考察した。
平坦な中の「高さ」	単著	2016. 6	フィールドから：観察の友 134号、1260頁	標高が低く津波被害も想定されている碧南市南部の高低差について観察、分析、考察した。
かつての線路と駅	単著	2016. 6	フィールドから：観察の友 134号、1265頁	廃線となった名鉄三河線の碧南駅以南の駅や線路について考現学的に観察、考察した。
物理的境界から社会的・文化的境界まで	単著	2016. 9	フィールドから：観察の友 135号、1272-1273頁	境界（ボーダー）について目に見え、手にもできるものから、見えない社会的・文化的なものまで網羅的に考察した。
マスクのつくる境界	単著	2016. 9	フィールドから：観察の友 135号、1275頁	学生をはじめとする多くの日本の人がマスクをする理由には防疫以外の心理的なものがあることを考察した。
「温暖化」と水害	単著	2017. 2	フィールドから：観察の友 136号、1284頁	水害を科学的、生態学的に捉えたと、どのような問題が現代にあるのかが分かる。このことを報告した。
水を探す	単著	2017. 2	フィールドから：観察の友 136号、1284頁	水が必要不可欠な生物としての人間が、乾燥地帯でどのように水を求めて行動しているかなどを報告、考察した。
名古屋芸術大学ゼミナール活動報告(2)	単著	2017. 3	名古屋芸術大学人間発達研究所年報、第5・6巻合併号、15-25頁	人間発達学部のゼミナール活動および、「大学生になる」の活動について報告した。
◎その他				
碧南いろいろ詰め合わせ	単 独 発表	2016. 8～9	碧南・日常観察展（8/3-9/4）、愛知県碧南市中町2-16、カフェ・カノン	碧南市で観察される、考現学的、人類学的に興味深い物をミュージアムボックスに仕立て、ギャラリーカフェに展示した。
誘導的に観光地化する街	単 独 発表	2016. 8. 21	夏休み〈まち歩きサロン〉発表会 午前の部：変わってゆく町の観察と研究/表現の広がり	石川県金沢市を例に、政策的、商業的な意図を明確にして観光地化していく事例を紹介し、考察を発表した。
境界をめぐって	シンポジウム 中の単 独発表	2016. 8. 21	夏休み〈まち歩きサロン〉発表会 午後の部：軒下ミュージアム	軒下というものは、家と外の境界であるが、そのことから岡本信也氏が企画したシンポジウムの一部として、障壁、境界に関する様々な事例を紹介するとともに、それらの長所と短所を考察したことについても問いかけをした。